



九州各県の樹苗生産関係者が出席して行われた意見交換会

約60人が出席し

理局の職員など

合に工夫している点などについて発表があり、他の生産者は、

九州各県の樹苗生産関係者が出席して行われた意見交換会

九州局管内におけるコンテナ育苗生産は、現在、28人で行われており、コンテナ育苗生産に伴う育苗技術についての発表では、

育成の配合法や直挿しによる場合に工夫している点などについて発表があり、他の生産者は、

の育苗技術向上に向けた意見交換会」を九州各

九州局管内におけるコンテナ育苗生産は、現在、28人で行われており、コンテナ育苗生産に伴う育苗技術についての発表では、

育成の配合法や直挿しによる場合に工夫している点などについて発表があり、他の生産者は、

コンテナ育苗の育苗技術向上に向けた意見交換会 九州各県から関係者60人が参加

九州森林管理局では、平成22年度から「低コスト造林」に向けた取り組みとして、マルチキャビティコンテナ苗の植栽を 실시し、3年間で約36万本を植栽したところです。

九州でのコンテナ苗生産は始まってから数年が経過したばかりで、育苗についても各生産者がより良い苗づくりを目指して技術の向上を図っている現状であり、今後、民有林を含め一層の普及拡大と苗木コストの低減を推進していくために、コンテナ苗の生産拡大と育苗技術を確立することが重要です。このた

め、これまでのコンテナ苗の実証結果と各県の生産者の育苗技術の向上に資すること目的に、8月29日～30日にかけて、熊本県南阿蘇村において「コンテナ苗の育苗技術向上に向けた意見交換会」を九州各

九州局管内におけるコンテナ育苗生産は、現在、28人で行われており、コンテナ育苗生産に伴う育苗技術についての発表では、

開かれました。意見交換会では、九州森林管理局から、国有林における低コスト造林の取り組み状況と需要拡大及び今後の取り組みについて、九州森林管理局森林技術・支援センターと森林総合研究所九州支所からは、これまでのコンテナ苗の実証結果などの発表、各県生産者を代表して羽田樹苗園の羽田誠次氏、清瀧ナーセリーの清瀧毅氏、長倉樹苗園の長倉良守氏、砂田樹苗園の砂田博文氏の4氏に各自の育苗技術などについて、林木育種センター育種研究室長からコンテナ苗(エリートツリー)の育苗について、各県の林務担当者から、コンテナ苗普及に向けた取り組みについて発表をいただきました。また、日本森林技術協会九州事務所の中村松三研究員からは、これまでの知見による貴重なご意見をいただきました。



羽田樹苗園で意見交換を行う関係者

(担当 川森林整備課)

自署の名山



大隅森林管理署

田代森林事務所

森林官 岩崎 正二

鹿児島県大隅半島にある九州百名山峰のひとつである稲尾岳を紹介します。

稲尾岳は、大隅半島南部の錦江町、南大隅町、肝付町の3町の境で中央にそびえる山です。



稲尾岳と太平洋を望む

大隅半島照葉樹の森「稲尾岳」930以上の

稲尾岳という名称は山塊の総称であり、標高959以上の枯木岳を最高峰に、稲尾岳神社のある標高930以上の稲尾岳などがあります。

また、稲尾岳は肝属山地に属し、その山脈は北東から南西の方向に約50キロに渡り、南東側は太平洋、西側は錦江湾を望むことが出来ます。

稲尾岳一帯の森林に

稲尾岳は登山もおすすめで鹿児島県照葉樹の森内にある稲尾岳ビジターセンターより西口コース、北口コース、滝巡りコースと3つのコースがあり、コースが異なりますが、どれも一般的なのが西口コースになります。登山道西口よりスタートしてしばらく清流伝いに歩くと、途中に花瀬川の源流と



稲尾岳ビジターセンターに設置された稲尾岳周辺案内板

なる「川の源」を見ることができ、その先には自然石展望台があります。

枯木岳、稲尾岳山頂では原生木が生い茂って展望ができないため、ここでしばらく休憩しながら景色を楽しむことをお勧めします。天気の良い日は種子島や、年に数回ではありますが屋久島の宮之浦岳を見ることが出来ます。そこから枯木岳を登り、アカガシの巨木群を抜けると稲尾岳に到着します。

稲尾岳にある稲尾岳神社は、平家の落人が建造したものと云われており、その昔平家の落人達が京を偲んでいたのではないかと思います。この西口コースは片道約2時間の行程です。この登山道は3つのコースそれぞれに目印があり、パンフレットと誘導ナンバーを見比べながら歩けるようになっていきますので初めての方でも登りやすい登山道になっています。

また鹿児島県照葉樹の森では年間を通して月例登山会や、木工クラフト、草木染、かずら細工、炭作りなどのイベントが行われていますので自然を満喫してみたいかがでしょうか。

低コスト造林施業の現地検討会

【大分西部森林管理署】今年

度から誘導伐・密着造林施業を行っていることから、民有林への情報発信や民・国連携を推進するため国有林における誘導伐と密着造林による低コスト造林の方針とコンテナ苗の植栽や簡易シカ侵入防止ネットについて、大分県や熊本県の担当職員及び森林整備推進協定締結者を交えた現地検討会を開きました。参加者からは、民・国問わず林業再生に向けた低コスト造林について多くの意見が出されました。新たな技術のコンテナ苗については、苗木の供給や植付器具などについて意見が集中し、今後のコンテナ苗の普及が期待される現地検討会となりました。



現地検討会へ参加された関係者＝大分西部

新任挨拶 どうぞよろしく

平成25年9月1日付けの異動で新しく着任した総務企画部長と計画課長を紹介します。

総務企画部長



もりわき かずまさ
森脇 和正

年齢 53歳
出身地 愛媛県
前職 林野庁林政課課長補佐
(人事第一班担当)
抱負 九州での勤務は初めてです。九州局は進取の気性に富む前向きな局だと聞いています。伝統ある九州局の一員として、更に前向きに職員の皆さんが働ける職場となるよう取り組んでいき

計画課長

たいと考えていますので、よろしくお願ひします。



こんどう まさゆき
近藤 昌幸

年齢 47歳
出身地 大阪府
抱負 一般会計としての出発という重要な年に、初めての九州

局勤務となります。国有林としての役割を十分に果たせるよう、微力ながら全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

人のうごき

10月1日付森林管理局長発令
企画調整課企画官(情報システム管理担当)

宮木利浩(熊本署)
熊本署主任事務管理官
春山司(宮崎北部署)
宮崎北部署主任事務管理官
平田和之(宮崎南部署)

都市部と自然が隣接する街

「北九州市」は前に洞海湾、後ろには木々の繁る国有林、帆柱連山があります。その連山のひとつつ神功皇后が言った更倉山(現在の皿倉山)八合目に今年40周年を迎えるアーチェリー場



北九州市アーチェリー協会
理事長

吉永 英隆さん

「北九州フィールドアーチェリーランド」があります。40年前、営林署のレジャー施設として弘済会

が設立したアーチェリー場は90%と70%が射てるターゲット練習場として山の地形を利用して作られたフィールドコースがあります。

ターゲット場は初心者も射てるように10%の練習用的と初心者用弓具を備え、親子連れや若いカップルの憩いの場所として、また、子供会やボーイスカウトの教育指導の環境としても利用されてきました。かたや、フィールドコースは難易度の高いコースで構成され2001年には全日本の大会、2008年には全日本社会人の大会、2010年

ターゲット場は初心者も射てるように10%の練習用的と初心者用弓具を備え、親子連れや若いカップルの憩いの場所として、また、子供会やボーイスカウトの教育指導の環境としても利用されてきました。かたや、フィールドコースは難易度の高いコースで構成され2001年には全日本の大会、2008年には全日本社会人の大会、2010年には全日本学生選手権の大会も開催されました。九州にも昔はフィールドコースがいくつもありましたが、森林管理署の理解もあって、今は唯一このアーチェリー場だけが残っています。スポーツ施設とはいえ営利目的ではやっていけません。周りの理解と協力があつてこそ維持できます。2015年は全日本の試合が来ます。全国より150人程の選手、役員が集まります。



線形の検討を行う参加者=長崎

宮崎南部署事務管理官
南崎亜紀子(宮崎南部署)
熊本署付
増永勝也(四国局)
(担当=総務課)

【長崎森林管理署】効率的な路網線形作設について、九州森林管理局より講師を招き現地検討会を行いました。作業は4班に班編成を行い、各班から出された線形を基に効率的な線形に沿って踏査を行いました。その後、線形の見直しを行い確定した線形について各班ごとの考え方の発表を行いました。参加者からは活発な意見が出るなど、今回の検討会は専門的技術の習得や多くの意見交換ができ、有意義な現地検討会となりました。

「コウヤマキ」観察会を開催

【西都児湯森林管理署】コウヤマキの存在と郷土の自然や樹木に親しみや関心を深めてもらおうと、「森の巨人たち百選」に選定されているコウヤマキの観察会が、コウヤマキ保護協議会主催により開かれ、西都市立妻北小学校の児童や保護者を対象に募集。参加者は7人と人数的には寂しい結果となりました。ごんまりとした中にも、楽しい雰囲気観察会となりました。参加者はコウヤマキを見るのも聞くのも初めてで、森林インス

トラクターの説明に熱心に耳を傾けていました。帰りのバスの中での「コウヤマキ博士クイズ」



観察会へ参加されたみなさん＝西都児湯

「巾着式網箱罟」実演会を開く

【大分西部森林管理署】管内のシカ被害は高標高地へと拡大し、一層深刻化して来ております。当署では、被害対策として防護ネットの設置やくくり罟の改良に取り組み、昨年度は220頭のシカを捕獲しました。さらに捕獲効果を上げるためには

類を学び、中学生から高校生にかけていかに漫然と樹木を見ていたかはつきり自覚することが出来ました。京都で更に2年間過ごしたときに改めて北山や東山を歩いてみると長野県の山で見た樹種が

職員での捕獲に限界があり、地域と一体となった対策が求められ、今回、民・国で情報や技術の共有を図る目的で森林技術支援センターの協力のもと当署管内において「巾着式網箱罟」の実演会を開きました。実演会には大分県や、日田市、地元猟友会など約60人が参加しました。参加者は、これまでの箱罟のイメージを一新する巾着方式のアイデアを目にし、設置方法や作動の仕組みなどに質問が相次ぎ、共通の課題克服のために、連携を深めシカ被害対策に取り組みこととしました。なお、この実



「巾着式網箱罟」実演会の様子＝大分西部



堀 康典さん

るべく暖かい(暑い)ところで生活することを夢見て何度も地図帳の始めの部分を見返していました。地図の緑色のところは固有の草むらや林になっているに違いないとかなりの勘違いをしながら・・・。

私が生まれた奈良は吉野林業が有名で、京都は北山林業で知られています。

山でほんまに山

そのような環境が多少影響したのか長野県にある大学の農学部林学科を選んで好き勝手に山三昧の学生生活を送りましたが、その頃学部の専門課程で初めて形態・生理などに基づく樹木分

かなりあるのですが、よくわからない樹種も多く殊に京都市南部の山を歩くときは、それまでの距離当たりの時間が長くなっていたような気がします。

どの一部資料が逆に主な資料となり、その後7年ほどの房総半島在住を挟んで今も参照することが多いものとなっています。・というのは、なかなか覚えられないということなんです。

これも利用のひとつですが、どのような印象を抱かれるのか今から大変楽しみです。(福岡県福岡市在住)

現在私は、旅行などで日本を訪れる海外の方を対象に主に福岡県の山を紹介することを考えており、そのなかには国有林も含まれています。

山を歩いたり植物を見るのも、木材生産をするのも広い意味での森林利用だとすると40年近く直接、森林を利用していることになりそうです。

森林利用という言葉があります。山を歩いたり植物を見るのも、木材生産をするのも広い意味での森林利用だとすると40年近く直接、森林を利用していることになりそうです。

第2回 奄美・琉球世界自然遺産候補地 科学委員会開催

「第2回奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」（環境省、林野庁、鹿児島県、沖縄県が共同事務局）が8月30日、鹿児島市内で開かれ、各分野の専門家である委員により世界遺産推薦地域の選定などについて議論が行われました。

委員会では事務局から世界自然遺産登録の条件を満たすための指標（希少種の種数、森林面積、植生自然度など）を示し、各島ごとの状況を説明しました。委員からは4島（奄美大島、徳之島、沖縄本島やんばる、西表



科学委員会で議論する委員の皆さん

島）は重要であるが、「奄美・琉球」の貴重性は小ささままな島で構成されているからこそであるとの意見もありました。

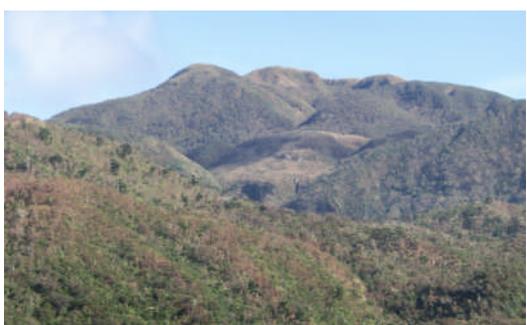
また、外来種の影響は大きく、登録後の保護担保措置も考えて対象地を検討しなければ登録されても、すぐ世界遺産から抹消されるなどの意見がありました。今後、年内には島単位で候補地の絞り込みを終わらせてユネスコに年明け提示を目指すこととしています。

（担当＝計画課）

GPSを活用し遭難者を救出

【沖縄森林管理署】西表島最高峰である古見岳で9月3日夕刻、登山していた男女から「道に迷った」と租納森林事務所へ連絡がありました。古見岳を管轄している大原森林事務所森林官に連絡を行い同森林官は地元駐在所へ連絡。地元消防分団とともに捜索を開始しました。連絡があった遭難者がGPS携帯を所持していたため、森林事務所で使用中の業務用のGPSを活用して、遭難者を無事に救出

することができました。



遭難現場となった古見岳遠望＝沖縄



救出に使用された機器

森林整備推進協定を締結

【西都児湯森林管理署】本年4月から関係者間で森林の多面的機能発揮と木材の安定供給体制確立への枠組み作りに向け協議、検討を重ねた結果、今回「檜・白水地域」及び「川南尾鈴地域」森林整備推進協定の調印式が当署で行われ、宮崎県児湯森林振興局技術次長立会のもの



調印式を終えた関係機関の代表＝西都児湯

と、児湯広域森林組合、井上林産（株）、当署の代表者が協定書に調印。「檜・白水地域森林整備推進協定」は、平成24年3月に井上林産（株）と当署で締結しており、今回、新たに児湯広域森林組合が加わり、協定内容の拡充区域拡大を図るものであります。なお、「川南尾鈴地域森林整備推進協定」は、新規に児湯広域森林組合と当署の間で締結するものです。今後は、各協定者が連携、協働しながら、効果的な路網整備と効率的な作業システムを導入して低コスト化を図り、適切な森林整備を推進することとしています。なお、協定期間は平成25年10月1日から平成29年3月31日まで。

「ニッセイ長崎の森」で育樹活動

【長崎森林管理署】9月7日、当署管内神連石倉戸国有林のニッセイ長崎の森で「育樹活動」の一環として下刈り作業が行われました。当日はニッセイ社員約50人が参加。参加者は5班に編制されそれぞれの班毎に当署職員が配置され、安全面や下刈り作業の指導を行いました。参加した社員の中には、植え付け時から参加した人もいて、小さかった苗木が、自分の背丈を追い越している木を見て、感慨深い方もおられました。作業終了後は参加者から次回も是非参加して木の成長を確認したいと現地を後にされていました。



育樹活動を終え現地にて記念撮影＝長崎

平成25年度 第1回 屋久島世界遺産地域科学委員会 及びヤクシカワーキング開催

9月28日開催の屋久島世界遺産地域科学委員会は、新たな「屋久島世界遺産地域管理計画」が、昨年10月に策定されて以来、今年度初めての開催となりました。



屋久島世界遺産地域科学委員会の様子

はじめに、九州地方環境事務所 所の杉田高行統括自然保護企画官から、担当事務局として挨拶を行った後、会議開催の冒頭、荒木耕治屋久島町長からも次のような挨拶がありました。「屋久島は、今年で世界遺産登録20年を迎え遺産登録が地域にもた

らした効果や課題を評価・検証し、屋久島の価値をどう引き継いでいくのか、改めて検証したい。屋久島からアピールする機会として、11月23日に開催する記念式典、関連イベント成功に向け準備を進めている。また、環境保全と観光振興の調和を推進するため、入島税、入山料や新たな財源確保の検討などこれまで結論を得なかった課題についても取り組みを進めている。

一方、山岳トイレ、登山道の利用増加や集中化による問題など課題が山積している。さらに、縄文杉の大枝腐朽対策など新たな課題も発生しており、新たに改定された世界遺産地域管理計画では、管理主体として、屋久島町も名を連ね、地元の要請や意見も踏まえ、効果的対応となるよう積極的に取り組んでいきたい」

その後、矢原徹一科学委員会委員長の議事進行で議事に入りました。主な議題や意見は、およびそ次のようなものが出されました。まず、外来種対策として、

タヌキ、外来トカゲ（キノボリトカゲ）、ガジュマルなどクワ科植物を加害するオキナワイチモンジハムシの各集落への被害拡大が報告され、これらの対策を講じていく必要があること。

九州森林管理局からは、在来のヤクシマオナガカエデなどに対するアブラギリの影響を探索するため、平成23年度から今年度にかけて分布、種子散布状況などの基礎的調査、影響調査、駆除試験の実施について紹介しました。

次に、山岳部の利用のあり方について議論し、科学委員会の関わり方として、科学的視点からの関わりを持って、何らかの方針、アピールをすべきとの意見や自然科学者だけでなく、社会科学者のアプローチも加えるべき、地元での議論・検討も深めるべきなどの意見。また、地元住民への伝達も課題とされました。科学委員会は、既に5年が経過し「若い者の意見を反映するため、委員の交代を検討しては」との意見も出されました。

事務局からは、全体の見直しの中で任期についても改めて検討していくこととしました。

最後に、中山浩次計画保全部長から、「本年は、屋久島の遺産登録20周年の節目の年でもあり、貴重な意見を踏まえて関

熊本市内中学校2校の ナイストライ事業を受入

係行政機関の一層の連携を深め、屋久島の保護管理の取組を進めていく」との閉会の挨拶がありました。

前日の9月27日には、ヤクシカワーキンググループの会議が

熊本市立北部中学校と京陵中学校から「ナイストライ事業」の要請を受け、北部中学校生4人が9月10日から12日まで、京陵中学校生3人が9月17日から19日まで職場体験を行いました。

この事業は「地域や自然の中で職場体験などの様々な体験活動を通じて、勤労観・職業観や感謝する心を培うこと」、「生きる力」を育成すること」を目的に

1日目は古島勝美総務課課長補佐が九州森林管理局の組織や仕事の内容について説明の後、「今日の新聞から」に使用するため新聞記事の切り抜きを行い、その後、監物台樹木園に移動し、園内周囲の点検や落ち葉清掃などの管理作業を体験しました。

2日目は吉無田園有林での不法投棄など確認する森林パトローパーや南阿蘇の大野国有林で境界標を探す境界巡検を体験しました。

3日目は3日間で体験した内容について広報紙作成に取り組み職場体験学習を終わりました。

生徒からは、「あいさつの大切さ、仕事の大変さと楽しさを学ぶことができた。将来、森林を守る仕事に就きたい」などお礼の手紙が寄せられました。

(担当：川口 総務課)



職員から境界巡検の説明を受ける生徒ら

熊本市立北部中学校と京陵中学校から「ナイストライ事業」の要請を受け、北部中学校生4人が9月10日から12日まで、京陵中学校生3人が9月17日から19日まで職場体験を行いました。

この事業は「地域や自然の中で職場体験などの様々な体験活動を通じて、勤労観・職業観や感謝する心を培うこと」、「生きる力」を育成すること」を目的に

1日目は古島勝美総務課課長補佐が九州森林管理局の組織や仕事の内容について説明の後、「今日の新聞から」に使用するため新聞記事の切り抜きを行い、その後、監物台樹木園に移動し、園内周囲の点検や落ち葉清掃などの管理作業を体験しました。

2日目は吉無田園有林での不法投棄など確認する森林パトローパーや南阿蘇の大野国有林で境界標を探す境界巡検を体験しました。

3日目は3日間で体験した内容について広報紙作成に取り組み職場体験学習を終わりました。

生徒からは、「あいさつの大切さ、仕事の大変さと楽しさを学ぶことができた。将来、森林を守る仕事に就きたい」などお礼の手紙が寄せられました。

(担当：川口 総務課)

世界自然遺産登録 20周年記念フォーラム開催

白神山地世界自然遺産登録20周年記念フォーラムが、東北森林管理局の主催により9月7日、秋田市の市民交流プラザ・アルヴェにて開かれました。副題に「白神山地の恵みを活かして」をテーマに、8人の講演者が登壇しました。



フォーラムの様子＝秋田市

はじめに基調講演として、県森林・林業・林産業活性化推進議員の会会長の武田英文氏により、地域振興の観点から「白神山地との関わり合いの必要性」、自然、歴史や産業、文化的視点での関わりを深める提言があり、

秋田県立大教授蒔田明史氏からは、「白神山地のモニタリング調査研究等科学的見地からのアプローチの重要性について」、林野庁からは、小向克之東北森林管理局藤里森林生態系保全センター所長から、「白神山地の魅力伝えるガイド事業や森林環境教育など普及啓発活動などについて」が発表され、同じく20周年を迎えた屋久島の遺産地域について、九州森林管理局からは遺産登録後の歩みに触れながら、主として「オーバーユース問題やヤクシカの食害問題など」、近年問題とされている課題について触れました。

この後、地元からは日頃山岳ガイドで活躍する秋田白神コミュニティケーションセンター代表理事の後藤千春氏、マタギ文化の伝承の視点でガイドを行う小池幸夫氏などから白神山地の魅力や見所紹介、白神山地の恵みの水を商品化して注目されている白神山美術館代表取締役太田正光氏から事業展開の報告、秋田県立二ツ井高校生、清水達広君による普及啓発活動「二高白神ブ

ロジェクト」の取り組みなど幅広い活動報告が行われ、会場一杯となる一般市民約220人を迎えて盛況のフォーラムとなりました。

（担当 川口 画課
自然遺産保全調整官）

森林整備推進協定を締結

【熊本森林管理署】9月30日、前川収熊本県森林組合連合会会長と森本義春熊本森林管理署長ほか関係者が出席して「熊本市西部地域森林整備推進協定」（金峰山）の調印式を行いました。本協定は当署と民有林の長期受委託者である熊本県森林組合連合会の2者による協定で、民有林・国有林合わせて2815畝に森林共同施業団地を設定。路網整備や間伐など、民有林と国有林が連携して効率的な森林整備を推進することとしており、調印式では、前川会長から「この地域の民有林は、単体の森林組合が約10年前に解散し森林整備が遅れている。民・国が一体となった施業団地の設定は大きな意義がある」と挨拶されました。今後この協定が地域の森林・林業再生のモデルとなるよう具体的な取組を行うこととしています。



調印後の前川収熊本県森林組合連合会会長と森本義春熊本森林管理署長 川熊本



小さい頃、テレビなどで「子鹿のバンビー」をよく目にしたものです。その影響かシカは可愛いものだというイメージを強く持っているのは私だけでしょうか。

シカ対策を考える

また、シカ柵設置などのシカ対策を行わないと造林木が成林しないことにも大きなショックを受け、シカは有害鳥獣であり個体数調整の対象で憎らしい存在となりました。

その後、国有林野管理課勤務となり、財産管理などの仕事を

シカ対策の担当者として、皆さんとともにシカの個体数調整の推進に取り組み、近い将来には、シカが適正な頭数となり、シカは可愛い存在と思える日がくればと考えています。

（保全課長 山本 博）

熊本南部署に勤務していた平成20年頃に、白髪岳などに登る機会があり、林床に植物がなかったり、バイケイソウなどの特定の植物が一面に広がっていたり、山が酷い状態になっているのを多く目にし、シカ被害状況の深刻さを認識しました。

やってきましたが、今年4月からは、国有林野管理課が、シカ対策や松くい虫対策業務などの保護業務も加わり保全課として新たにスタートしました。

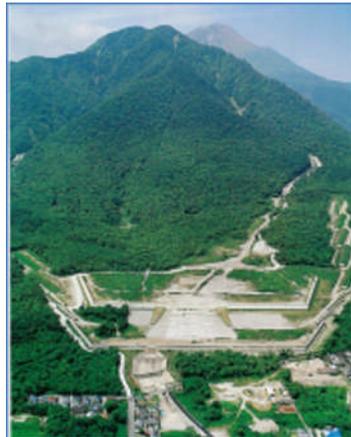
シカは、太古の昔から食料や衣類として利用されてきました

「後世に伝えるべき治山 よみがえる緑」 4箇所選定

林野庁は、10月3日、治山事業を実施して100年が経過したことを機に、「後世に伝えるべき治山よみがえる緑」として全国で60箇所を選定・発表しました。

九州森林管理局管内からは長崎県原市の「緑を復元した雲仙・普賢岳の治山事業」、長崎県島原市の「土石流から住民を守る眉山地区治山事業」、宮崎県宮崎市の「台風被害から山河を甦らせた鶴塚山系治山事業」及び鹿児島県鹿児島市の「土石流から生命・財産を守る桜島の治山施設」の4箇所が選定されました。

「後世に伝えるべき治山よみがえる緑」は、森林管理局及び県が推薦し、林野庁において、本年5月から学識経験者や文化人（作家・マスコミなど）からなる「後世に伝えるべき治山」選定委員会を設置し審査を行い、技術、事業効果、地域への貢献、人々の記憶という点に加え、国民や関係者の視点を考慮し60箇所が選定されたものです。



今後、地域住民の安全・安心



クリは身近にあり、秋の味覚として楽しまれています。クリは自生もしていますが植栽される貴重な換金作物でもあります。クリの見分け方は、葉の縁の刺状になっている鋸歯が先の方へ斜めになっていることと葉裏に小腺点が密布していることです。クリの名前は、クリの実が落ちているのを小石に見立てて石の古語「クリ」から付けられています。

クリは高齢級の森へ行くと倒木となって何時までも腐らず残っています。タンニンを多く含む

に寄与し、地域環境の保全に資するこれら治山施設などを後世に伝えていくため、関係する県及び市と連携を図りつつPRしていくこととしています。

九州森林管理局が推薦し、「後世に伝えるべき治山よみがえる緑」として選定された4箇所の治山施設の概要は次のとおりです。

(担当) 治山課
専門官 (災害調整担当)

所在地	治山施設等の名称	選定概要
長崎県 島原市ほか	緑を復元した雲仙・普賢岳の治山事業	雲仙・普賢岳噴火災害の復旧。スーパー治山ダムや大面積の航空実操工などを施工
長崎県 島原市	土石流から住民を守る眉山地区治山事業	島原大変・肥後迷惑と言われた災害跡の大崩壊地の復旧
宮崎県 宮崎市	台風被害から山河を甦らせた鶴塚山系治山事業	大規模崩壊（いわゆる深層崩壊）箇所の本格的な復旧対策
鹿児島県 鹿児島市	土石流から生命・財産を守る桜島の治山施設	桜島火山対策 深間工1442基設置

注：「緑を復元した雲仙・普賢岳の治山事業」及び「土石流から生命・財産を守る桜島の治山施設」は当森林管理局のほか、それぞれ長崎県、鹿児島県からも推薦されました。

72 クリ (ブナ科)

でいるため昔から枕木（線路、炭鉱など）や家の土台として使われてきました。

街角で売っている天津甘栗は中国産の栗で、小粒でクリタマバチの被害を受けやすいので日本では栽培されていません。ブナ科の堅栗（果実）をドンクリと呼んでいますのでクリも立派なドンクリでドンクリの仲間では一番大きいです。

縄文時代には小さなクリを食べていたと思っけませんか。遺跡の調査によると、縦約3センチ、横約3センチと現在市販されて



異常に暑かった夏が過ぎ、朝晩が急に冷え込みだし、やっと秋になったように感じる。近くの公園のコスモスが、風に揺れうれしそうに語りかけてくるように感じる▼秋といえばサンマを思い浮かべるが、今年是不漁で高騰している▼不漁の原因は海水温度が高いことだと。気象庁によると海水温は過去最高の海域もあり漁業への影響を懸念している。海水温、海面の上昇、極地の氷塊は地球温暖化の証拠だとも▼沖縄周辺の広い海域でもこれまでに無い海水温度の上昇が報じられており、このことが原因で台風の発生が多くなっている。現在も台風23号24号と立て続けに沖縄を襲い、24号は九州に近づいている▼地球温暖化は確実に進んでおり、我々の生活や環境に与える影響は計り知れないものとなっている▼地球温暖化防止対策の森林吸収源対策として、様々な取り組みが行われている▼今後、示される新たな森林吸収源対策が、一般の国民に理解され、国際的にも認められ、地球温暖化が少しでも防止できるよう願う。(一)

